

平成30年度第5回士別市教育委員会会議録

1. 開 会 平成30年10月 5日 (金) 午後 3時30分
2. 閉 会 平成30年10月 5日 (金) 午後 5時10分
3. 会 場 教育委員会 教育長室
4. 出席者 教育長 中 峰 寿 彰 生涯学習部長 鴻 野 弘 志
代理 五十嵐 紀 子 生涯学習部次長 長 南 広 基
委員 千 田 秀 昭 学校教育課長 須 藤 友 章
委員 馬 場 千 晶 学校教育課参事 大 留 義 幸
委員 加 藤 洋 之 学校教育課参事 藤 田 泰 昭
社会教育課長 武 山 鉄 也

5. 議 件 (発言者、議事要旨及び議決事項)

○中峰教育長あいさつ

収穫期を迎えお忙しいところ、本日は会議の議題はないが、懸案事項等について情報共有し、ご意見をいただきたい。三連休を控え、台風が接近するとの予報だが、台風の勢力は弱まり、警報は出ない見込み。先月は台風、地震と休校が続き、学校によっては授業時数の確保が難しいところもある。その中で、各学校の学校祭では生徒達が力いっぱい取り組んでいた。今月は小学校の学芸会もある。本日もよろしくをお願いします。

1 報告について

○中峰教育長 進行

(1) 現在の教育課題等について、順に説明を。

○鴻野部長

【3定一般質問】

9月11日と12日に一般質問が行われ、教育委員会関係では2人の議員から次の3点について質問があった。

・地域安全マップについて

東京三鷹市で作成しているものを例に、交通安全の観点から作成しているマップに防犯の視点を加えてはどうかというもの。危険箇所を示すよりもすぐに対応すべき。また、子ども110番の家について再質問あり。平成13年に110番の家を依頼して以来、整理できていない状況。

・重い通学カバンについて

この件に関しては新聞でも報道されている。子どもの体への負担や、家庭学習の推進等の問題がある。

・多中と西小の閉校関連について

通学手段等について協議中。多中とは、この秋に事務レベルの協議を始める。

【部活動拠点校方式】

教員数の減少により部活動が維持できなくなっている。自校に希望する部活動が無い場合は区域外

通学の対象とすることも検討したが、内容としてはそぐわない。拠点校方式を行っている自治体は全国的にもあまり例がないが、神戸市の内容を参考とした。限定的に男子バスケットと女子バレーの2種目について試行する。

○加藤委員

これまでも話題になったが、通学カバンは重そうである。教育委員会から学校に対し教科書等の量を減らすよう言えるのか。

○中峰教育長

各学校では置いて帰って良いものを知らせている。こちらからは配慮してもらいたいとしか言えない。教科書のページ数も増えており、豪華になりすぎている印象がある。

○加藤委員

補助教材で家庭学習ができるようになれば良い。

○五十嵐代理

ランドセルは軽くなっているが、中身が重い。

○中峰教育長

中学生の自転車通学もバランスを崩すと転倒の危険性がある。

○加藤委員

部活動の件では、現在多中で行っている卓球やバドミントンの話が出てくるのでは。

○中峰教育長

要望に全て応えるべきか。どれだけ継続してあげられるか。

○藤田参事

【コミュニティスクールの現状】

本年4月から上土別、多寄、温根別、朝日の各地区で協議会がスタート。5月までに1回目の協議会を開催した。2回目は11月8日に研修会として開催するので、ぜひ参加を。来年4月からの市内校での取り組みに向け先進地視察を行う。また、協議会の業務を進める地域コーディネーターを人選中。候補者の情報があれば提供願いたい。

○五十嵐代理

研修会には事前申し込みが必要か。

○藤田参事

当日参加で構わない。

○須藤課長

【適応指導教室の状況】

年度当初の通室は小学生2人、中学生3人であったが、現在は小学生1人と中学生5人が増え、合計11人が通室している。また、現在通室相談中のケースが複数ある。先月からパートタイムの指導員を増員し、工夫をこらしながら3名体制で指導している。

○中峰教育長

1学期の活動の中で日向温泉に行き入浴マナーを学ぶ機会を作った。そのような時には男性の協力が必要となる。通室している子どもの状況は様々で保護者と相談しながら対応していく。教室のニーズが減ることはないのでは。子ども達は高校に進学した卒業生の活躍を見に行っている。中学生の通室が増え、専科的な指導が出来ればなお良い。

○五十嵐代理

学校に戻ることができた子はいるのか。

市内の利用者は減少している。学校での宿泊研修も遠い所に行く傾向がある。北海道100年を記念して建設した施設は、つくもと常呂の旧かき島青年の家しか残っていない。継承先として検討している朝日の山村研修センターについては、移動の問題や施設の改修が必要となるなど課題がある。

○加藤委員

今後は建物のメンテナンスを含めて考えるべき。

○中峰教育長

最後に【その他】について。中川町、比布町、東神楽町において教育長が退任した。このうち、東神楽町では新しい教育長が決まっていない状況。

次に(2) 市教委への要望等について。

北教組と市P連から教育委員会への要望書が提出された。北教組からは、教職員の働き方改革について示してほしいとの要望があった。市P連からは、中体連の予選に係る経費の補助についての要望のほか、各学校から個別の事項について要望があった。市教委では毎年6月頃に営繕調査を行っているので、状況を確認しながら予算要求したい。

○千田委員

働き方改革について最近報道などで目にするが各市町村で計画を作るものなのか。

○鴻野部長

道教委では働き方改革についての推進会議を開催している。本市でも計画書を作る必要がある。

○中峰教育長

宗谷管内の市町村では既に計画が出来上がっているが、上川管内では取組が遅れている。部活動の休養日や学校の閉庁日を設定したり、学校に支援員やカウンセラー等を配置するなどして教職員の負担軽減を目指すもの。

○五十嵐代理

市P連からの要望として学校トイレの洋式化が含まれている。どの程度洋式化されているのか。

○須藤課長

平成10年に建設した多寄中学校までは和式トイレを設置している。洋式に改修するにはスペースの問題がある。最低でも1箇所は洋式にしている。なかなか改修できずにいる。

○中峰教育長

必要数を勘案して整備していきたい。臭いの問題もある。快適な空間を作る必要がある。

次に(3) 北海道胆振東部地震に伴う停電対応等について説明を。

○鴻野部長

9月6日の地震によって7校が臨時休校した。道教委からの通知では電気が復旧していない場合は休校すべきとなっていた。翌日7日も7校が臨時休校となった。学校祭を控え、休校にしたくないという学校もあった。

○中峰教育長

土日の行事についても自粛するよう通知があった。しからばいつから通常通りにするべきなのか疑問である。土中と南中にはソーラーを設置しているが容量が少なく電力を賅えない。上士別では学校を避難所として運営したが、大型の発電機が必要となることがわかった。施設に見合った物品を用意しなければならない。

○加藤委員

学校だけの話ではないが災害対策本部とのホットラインがないのはどうか。

○中峰教育長

施設が立派すぎて電波の届かない所もあった。

○鴻野部長

学校給食は、6日は残っていた食材とごはん、7日はふりかけとごはんに対応した。

○加藤委員

家庭によっては断水したため、水の出る学校に通えて助かったという声もあった。

連絡網は固定電話が使えず機能しなかった。携帯電話の番号は個人情報保護のためなのか知らされていなかった。

○五十嵐代理

学校からの連絡がなかったので、授業があるかないかわからなかった。

○中峰教育長

今回の反省を踏まえて通知手段を考えなければ。幌加内などの高校では寮生活をしていて実家が被災した場合は、家に帰されても困ることになる。本格的な被災地に戻すことにならない。

○五十嵐代理

複数の連絡手段が必要。いざという時に機能しなければ。

○中峰教育長

報告は以上でよろしいですか。

※ 全員了承

2 その他について

(1) 当面する今後の日程について

鴻野部長説明。

午後5時10分 会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

教 育 長

中峰 寿彰

会議録調整者

須藤 友章